

<b>授業科目名</b>	教育実習事前事後指導（小）(2100404)		
<b>時間割名</b>	教育実習事前事後指導（小）(43105)		
<b>時間割担当</b>	岡本恵太		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	1 必修 選択
<b>曜日・時限</b>	木・3		

### 授業の目標・概要

事前指導では、教育実習の意義や目的を理解し、実習へ向けての心構えを持つことができるよう、小学校教員の役割や責任、生徒指導、地域との関わり、授業づくりなどについて具体例をふまえながら学ぶ。事後指導では、実習で得た成果と課題を今後の教育実践に役立てることができるように、実習で学んだことに依拠しながら実習で得た自らの課題を解決する。

事前指導では、実習に臨むにあたり必要な知識とスキルを身に付けることを、事後指導では、実習で身に付けた知識やスキルをさらに教育実践に通用するものへと変容させることを目標とする。

### 学習の到達目標

<事前指導>

- ・教育実習に臨むことができる知識とスキルを身に付けることができる。
  - ・授業に関すること（指導案作成、教材分析、授業実践とその評価等）
  - ・生徒指導に関すること（いじめ、保護者対応等）
  - ・教師の役割に関すること（学級経営、校務分掌、安全指導等）

<事後指導>

- ・今後の教育実践に通用する知識とスキルを身に付けることができる。  
（下位項目は、事前指導と同じ。）

### 授業方法・形式

実習の事前指導

教育実習の意義・目標及び実習の方法、準備、心得を理解し実習における各自の課題などを設定する。毎週1回事前指導を13回行う。そのうち5回は、実習生全員で「実習の手引き」をもとに、講義形式で学ぶ。実際の学習の規律など学級運営の方法と教科指導の特徴を学ぶ。残り8回は、10人程度の少人数クラスに学生を分けて実習観察のポイントや指導案作成の方法を学ぶ。そして、実際にグループ別模擬授業を行い、学生間で相互評価をする。

実習の事後指導

実習後の指導は、2回行う。実習体験を振り返らせ、実習中に会った問題や課題について、記録をまとめ発表する。これを通して実践への理解を深め、実習体験の省察を通して、自己の課題を確認する。さらに、実習評価票が実習校より返還された際には、それをもとに4年次後期の教職実践演習における個々の目標を設定する。

### 授業計画

事前指導

- (1) 教育実習の意義と目的の確認（「実習の手引き」を使用）
- (2) 教育実習の全体の流れと諸手続きの理解
- (3) 教育実習を行う上での教員としての基本的な心得の理解と法律の確認
- (4) 教育実習の実習ノート記録の目的と具体的な記入方法の理解（「実習ノート」の使用）
- (5) 各教科の指導と教科外活動についての指導案の手順とポイント
- (6) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議  
（小グループごとに指導案を作成し、模擬授業と相互評価を行う。）
- (7) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議
- (8) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議
- (9) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議
- (10) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議
- (11) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議
- (12) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議
- (13) グループ別の模擬授業と模擬授業後の討議

事後指導

- (1) 実習の振り返り 実習経験と今後の課題発表と討議
- (2) 実習の振り返り 実習経験と今後の課題発表と討議

### 成績評価の基準

授業毎に行う小レポート、最終レポートなどをもとに、総合的に評価する。

### 準備学習・復習及び授

別途指示する。

### 履修上のアドバイス

事前指導では、教育実習を行うに当たって必要な知識やスキルを身に付けることとともに、教育実習に臨む心構えを持つことを期待する。事後指導では、教育実習を振り返り、自身の成果と課題を明らかにするとともに、教師として必要な資質・能力の向上に向けてどのように学び続けていくのかという見通しや計画を持つことを期待する。

履修にあたっては、教育実習（小）、教育実習（小）を同時に履修すること。また、本科目が不可の場合、教育実習（小）、教育実習（小）も次年度以降に再履修することになる。

### 教材・教科書

別途指示する。

### 参考書

別途指示する。